



TITLE:

## <第2章>工学倫理ミニシンポジウム (挨拶)

AUTHOR(S):

CITATION:

<第2章>工学倫理ミニシンポジウム(挨拶). 京都大学高等教育叢書 2004,  
20: 3-5

ISSUE DATE:

2004-03-22

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53995>

RIGHT:

## 第2章 工学倫理ミニシンポジウム

### 2-1. 概要

「工学倫理」科目のスタッフディベロップメントプロジェクトの中心的な企画として、学内外の3名の工学倫理専門家に講演を依頼し、工学倫理ミニシンポジウムを平成16年1月14日に開催した。工学倫理教官および新工学教育プログラム実施検討委員会委員を中心に呼びかけたところ、特別に興味を持って参加頂いた教官も含めて計18名の参加が得られた。このミニシンポジウムでは、連続的な3件の講演（第2章3―5節）の後をフリーディスカッションに充て、質疑応答や討論を行った（第2章6節）。

本ミニシンポジウムの詳細は以下の通りである。

開催日時：平成16年1月14日午後1時より

開催場所：工学部中会議室（8号館2階207-1号室）

ミニシンポジウムプログラム：

(1) 13:00-13:05 挨拶

工学部長 荒木 光彦

(2) 13:05-13:35 講演1 工学倫理の基本的見方

関西大学社会学部教授 齋藤 了文

(3) 13:35-14:05 講演2 技術者OBが教える実践的工学倫理

ーみじかく、やさしく、役にたつ  
立命館大学理工学部客員教授 中村 収三

(4) 14:05-14:35 講演3 高度情報化時代の工学倫理

京都大学文学研究科助教授 水谷 雅彦

(5) 14:35-15:10 講演後のフリーディスカッション

全員

(6) 15:10-15:15 閉会の辞

「工学倫理」科目のスタッフディベロップメントプロジェクト代表者  
大瀧 幸一郎

出席者（敬称略）

齊藤 了文（講演者，関西大学社会学部）

中村 収三（講演者，立命館大学理工学部）

水谷 雅彦（講演者，15 年度工学倫理教官・文学研究科）

荒木 光彦（工学部長）

大脇 幸一郎（評議員，16 年度工学倫理 WG，「工学倫理」科目のスタッフディベロップメントプロジェクト代表者）

田中 一義（15, 16 年度工学倫理 WG，新工学教育プログラム実施検討委員会委員長）

武田 信生（15 年度工学倫理 WG）

河合 潤（16 年度工学倫理 WG，新工学教育プログラム実施検討委員会・物理工学科）

酒井 哲郎（15 年度工学倫理教官・地球工学科）

古阪 秀三（15 年度工学倫理教官・建築学科）

山本 悟（15 年度工学倫理教官・物理工学科）

松田 一弘（15 年度工学倫理教官・電気電子工学科：特許庁）

今中 忠行（15 年度工学倫理教官・工業化学科）

高月 紘（15 年度工学倫理教官・工業化学科：環境保全センター）

湯淺 太一（新工学教育プログラム実施検討委員会幹事）

鉾井 修一（新工学教育プログラム実施検討委員会・建築学科）

吉田 英生（新工学教育プログラム実施検討委員会・物理工学科）

片山 徹（新工学教育プログラム実施検討委員会・情報学科）

田門 肇（新工学教育プログラム実施検討委員会・工業化学科）

谷垣 昌敬（国際融合創造センター融合部門）

田中 每実（高等教育研究開発推進センター高等教育教授システム研究開発部門）

教務課教務掛

## 2-2. 挨拶

工学部長 荒木光彦

ひと月前に工学研究科長・工学部長に就任しました荒木でございます。研究科長になる前は評議員および新工学教育プログラム実施検討委員会幹事として、工学倫理の授業の立ち上げをお世話させていただきました。以来なるべく講義に出席するようにしていたのですが、だんだん出席回数が減りまして、今年は全コマ欠席ということになってしまいました。

工学倫理というものを、勉強しながら手探りでやり始めることにしたわけですが、まあそのほうがよかったかなと思っています。ある程度進みますと、さあどうするかということになってきました。2年前に第1回目の工学倫理勉強会を開催しましたが、予算もありませんでしたので、非常に小さな規模で行いました。その時うかがった水谷先生のお話が強く印象に残っています。それから少し間があいてしまいましたが、今回、うまく総長裁量経費の申請が通り、外から講師の先生をお呼びしてこのようなシンポジウムを開催できることになりました。

それではよろしくお願いいたします。

